



臨床研究部  
からの  
お便り

第46回

未治療喘息患児を  
見捨てない!

## 未治療喘息患者 (HUP : Hidden Uncontrolled asthma) への治療導入の促進を目的としたネットワークシステム開発



アレルギー科、小児科  
有馬 智之

初めまして。  
2022年4月に近畿大学病院から来ました小児科医の有馬智之です。

今日は新しく始まる喘息の研究についてお話をさせていただきます。

喘息で亡くなるなんてもう過去の話。そう思っている人もいるかもしれません。1990年代

小児科領域の15歳以下での喘息死は年間100人を超えていました。2000年に入ってから年間数十人まで減少し、2018年以降15歳以下での喘息死は遂に0となりました。吸入ステロイドによる治療の普及により喘息のコントロールは可能とさえ言われるようになってきています。ではもう喘息は過去の疾患か?いいえ、そうではありません。喘息のコントロールは可能と言われ、喘息死も小児領域では0となりましたが、小児の喘息発作の救急受診の数というものは依然横ばいで推移しているのが現状です。これはどういうことかということ、喘息という病気がなくなったわけではなく、本来治療が必要な子供たちに治療が行き届いておらず、放置もしくは十分な治療を

受けられていない子供がいるということです。本来吸入ステロイドによる治療が必要な喘息患児の割合は約50%と言われていたのですが、実際には20%程度しか吸入ステロイドは使用されていないといった報告もあり、治療が足りていないのが現状です。なぜ治療が行き渡らないのか?親が忙しく受診をやめてしまった、そもそも喘息と診断されたことがなかったなど理由は様々ですが、これは僕たち医療者の責任もあると思います。そこで、子供たちに自分の喘息の症状を正しく学び、正しい治療を継続的に受けることが出来るための新しい何かは今喘息治療には求められています。そこで出たアイデアがアプリやSNSなどネットワークを活用した患者サポートサイトです。自分の症状を入力することによって現在の喘息の状態を評価したり、定期的な受診や検査を受けたいくなるようなアバターシステムなど導入予定です。

2022年度内には導入を予定しており、あの喘息の子よく喘息発作で受診してるなとか、あの子学校でしんどそうにしていること多いななどあればこんなホームページがあるよとご紹介して頂けたら幸いです。何か気になる事があれば、いつでも有馬までご連絡ください。これからもよろしくお願いします。



## PDCA (Prevent Decline, Control Asthma) 研究のご紹介



アレルギー科、小児科  
西田 敬弘

### 臨床研究に参加してみませんか?

患者様たちが受けられている治療はこれまでに行われてきた多くの「臨床研究」の結果をもとに考えられています。しかし、まだまだ医学的に解明されていないことはたくさんあり、これからも患者様のご協力の元、三重病院で病気や治療法の研究を行い、今後の医療に役立てたいと考えております。

今回は喘息に関する研究を一つご紹介させていただきます。

### 呼吸機能が下がらないようにするにはどうしたらいいんだろう??

今回ご紹介するのはステロイド吸入で治療中の患者様の呼吸機能低下防止を目的とした「PDCA研究」です。

喘息に悩む患者様は小児から成人まで未だに多いのが現状ですが、吸入ステロイドの登場により症状をうまくコントロールできるようになり、喘息の死亡率は格段に低下してきました。

そのため、喘息をお持ちの方には「最近では喘息発作や症状がないからもう治療しなくても大丈夫だろう。」とか、「病院でお薬をもらってきちんと使っているから安心!」とお考えの患者様も多いのではないのでしょうか。

しかし、小学生になってからも喘息治療の継続を必要